

ホーム 自然共生社会ってなんだろう？

自然を大切にする

しぜんきょうせいしゃかい
自然共生社会

このページでは人と生物が未来にわたり、自然の恵みを
得ることができる自然共生社会のすがたと、その社会を
つくるために商社が取り組んでいる活動を学びます。

しぜんきょうせいしゃかい
自然共生社会を歩く



自然共生社会(しぜんきょうせいしゃかい)ってなんだろう？

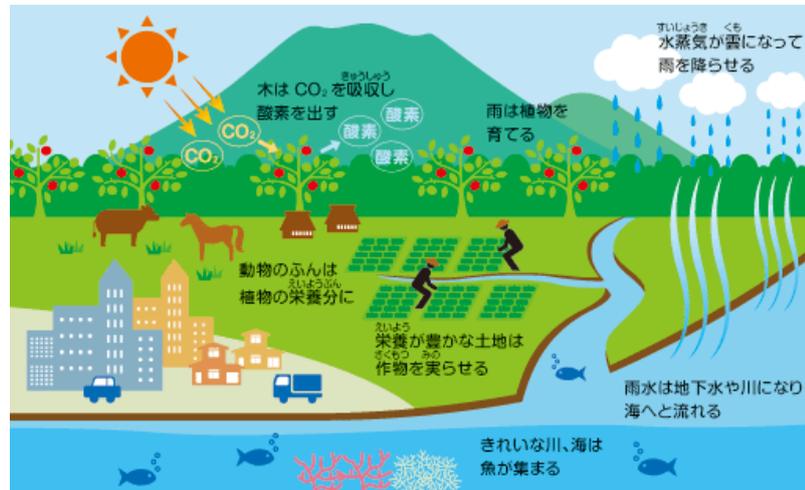
自然を守り、ともに生きる社会

人間と地球に生きるすべての生物がともにくらす
ことができ、自然からの恵みを受けつづけること
ができる社会を**自然共生社会**(しぜんきょうせい
しゃかい)といいます。

空気、大地、川、海、そしてそこに生きる動植物
など、すべての自然環境は地球という星のなか
でつながっていて、どこかの環境に問題が起こ
れば、必ず他の環境に影響(えいきょう)がおよ
びます。ですから**自然共生社会**は、地球にくらす
一人一人が、身近な自然環境を大切にしないと
実現できません。自然を大切にする。その約束を
守ることができれば、地球は豊かな恵みをあたえ
つづけてくれるのです。



■地球の自然環境はつながっている



(クリックで大きくなります)

さまざまな生物の存在(そんざい)が、人間社会を支えている

地球上には非常に数多くの生物が存在(そんざい)しています。また、それぞれが異(こと)なる環境に適応(てきおう)し、同じ種であっても、生息(せいそく)する地域(ちいき)や環境によって、少しずつ体のかたちや行動が違っていたりします。このことを「**生物多様性**(せいぶつたようせい)」といいます。私たち人間は地球の長い歴史のなかで、生物からたくさんの恵みを受けてきました。毎日の食料はもちろん、木を燃料にしたり、家を建てたり、植物から衣服(いふく)をつくることもしてきました。また、病気のときに飲む薬も約40%は自然界から得られたものを原料としています。※生物が多様(たよう)でいられること、つまり生物が生きる自然が大切に守られることが、私たち人間の社会には必要な

のです。

※出典:WWFジャパン

いま地球の自然と生物が大ピンチ!

水や土壌(どじょう)の汚染(おせん)、空気中の有害(ゆうがい)な化学物質(かがくぶっしつ)をふくんだ酸性雨(さんせいう)、オゾン層(おゾン)の破壊(はかい)、森林の減少(げんしょう)と砂漠化(さばくか)など、世界のいたるところで自然環境の悪化が問題になっています。自然環境の悪化は、私たちの生活環境や健康だけでなく、自然界に生きる生物にも大きな影響(えいきょう)をあたえます。国際自然保護連合(こくさいしぜんほごれんごう)が2009年に発表した、絶滅(ぜつめつ)のおそれのある野生生物の数を調べた「[レッドリスト](#)」によると、絶滅の危険性(きけんせい)が高い、または絶滅が心配される野生動物が、17,291種もいることがわかりました。人間社会の活動によって、さまざまな生物が大きな危機(きき)にさらされているのです。

■絶滅のおそれのある種のレッドリスト

分類		近絶滅種 ^{※1}	絶滅危惧種 ^{※2}	危急種 ^{※3}	合計
動物	哺乳類	188	449	505	1,142
	鳥類	192	362	669	1,223
	爬虫類	93	150	226	469
	両性類	484	754	657	1,895
	魚類	306	298	810	1,414
	無脊椎動物	479	560	1,600	2,639
	動物合計				8,782
植物		1,577	2,316	4,607	8,500
その他					9
合計種数					17,291

絶滅しそうな動植物がこんなにいるんだ!



※1 近絶滅種(きんぜつめつしゆ) / 近い将来、絶滅する危険性が非常に高い生物
 ※2 絶滅危惧種(ぜつめつきけんしゆ) / 個体数がへり、絶滅の危険性がある生物
 ※3 危急種(ききゆうしゆ) / 絶滅危惧種になる可能性の高い生物

出典: IUCN [国際自然保護連合]

(クリックで大きくなります)

商社の取り組み

自然共生社会を実現(じつげん)するために

商社が世界中で行っているさまざまな取り組みを紹介(しょうかい)します。

水質汚染の防止・改善

きれいな水を守る



もっと詳しく

フロン[※]の回収・処理

オゾンホール[※]の拡大を防ぐ



もっと詳しく

サンゴ礁を守る活動

海の生態系(せいたいけい)を守る



もっと詳しく

土壌汚染の防止・改善

豊かな大地を取りもどす



もっと詳しく

植林活動と持続可能な森林経営

緑を守り、育てる



もっと詳しく



▲ページの先頭へ